

小林 やすお



3年ぶりに決算認定!

24年度決算が3年ぶりに認定されました。過去2年の決算審査では「湯河原千代田荘の運営」「麴町保育園の整備方針転換」「千代田文学賞の新聞広告費」「旧練成中学の貸付」などの質疑に対し明快な答弁が得られず、反対多数で不認定となった経緯がありましたので、委員長として今回の質疑応答の行方が心配でしたが「旧練成中…」については「歳入の内訳」「役員報酬」など資料では分からない事が多いため、引き続き常任委員会で調査することといたしました。

質疑終了後に各会派の意見発表を行い、採決を行った結果、共産党を除く全議員が決算に賛成し認定することに決定しました。

自民党の意見発表

過去2年は、議会から問題点を提起しても明確な答弁がないばかりか、具体的な改善の動きも見られない状況の中、区政史上初めてとなる2年連続での決算不認定という結論を出さざるを得なかった。

自民党議員団では、説明できない予算執行を二度と行わないことを要望してきた。今回の審査の中で、執行機関はこれまでの決算審査での議論を真摯に受け止め、議会からの指摘事項に対してこれを改善する取り組みを行ってきたことが認められる。また、7年後のオリンピックに対し、組織横断的、全庁的に取り組んでいくことの必要性が区長答弁で明らかになった。

26年度予算編成にあたっては、委員会からの提案を積極的に生かし、区民にとって明るい展望の見える区政運営を行うことを求め、決算認定に賛成する。

トピックス

副区長、教育長 人事決まる!



副区長 山口正紀氏



教育長 島崎友四朗氏

今定例会において2年2か月にわたり空席となっていた副区長人事が上程され、副区長にまちづくり推進部長の山口正紀氏が、教育長に環境安全部長の島崎友四朗氏が議会の同意を得て選任されました。

山口氏は58歳。千代田区役所に勤めて34年間、まちづくり推進部をはじめ出張所長、地域推進部などで要職に就かれてきました。

島崎氏は59歳。千代田区役所に勤めて34年間、環境安全部長をはじめ保健福祉部、政策経営部などで要職に就かれてきました。

お二人とも千代田区役所の各部署を歴任され職員からの信望も厚く、区民の皆様のためにご活躍いただけるものと期待しております。

また、同時に教育委員古川紀子氏の再任も決まりました。

VOICE



祝 2020 オリンピック・パラリンピック 東京開催決定!!

▲日本武道館(柔道)

2020オリンピック・パラリンピック 競技大会に関する決議を可決



決議案を読み上げる 戸張孝次郎幹事長

東京都は困難な招致活動を勝ち抜いて五輪開催都市に決定されました。

招致に取り組んで来られた関係者の努力と熱意に敬意を表するとともに、招致活動を支えてきた多くの熱い支援の賜物であります。この間、自民党議員団も一貫して五輪招致に向けて全力で取り組んできました。

今後は招致から開催準備に移り開催都市にふさわしい「まちづくり」「おもてなし」を一層推進していく必要があります。

千代田区としても人々の記憶に残る素晴らしい大会になるように区全体で取り組む体制づくりを求める決議を自民・公明・諸派の賛成多数で可決しました。



▲皇居外苑(自転車ロードレース)

▼東京国際フォーラム(ウェイトリフティング)





▲皇居上空

代表質問 桜井 ただし

平成24年度 決算について



Q 2年連続で決算不認定という極めて異例な状況の中、不認定に至る事業に対して指摘を行ってきたが、区はどのように改善されたのか。「説明のつかない予算執行は行わない」、「区民の信頼を回復し、明るい展望の持てる次年度予算を編成すること」を昨年要望した。区は今回どのように理解し取り組んできたのか。

A 極めて厳しいご判断を真摯に受け止め、指摘を受けたものを十分に反映し24年度予算を計上した。今後も決算委員会での論議を賜りながら真摯に受け止めていきたい。

今後の財政運営について

Q ①将来にわたり持続可能な行財政運営を行うために、今後どのような取り組みが必要と考えるか ②これまでの本区の行革の取り組みや首都東京の行財政需要について正しく的確に主張していく必要がある。区長会や所管の部課長会での議論内容及び本区としての対応はどのようになっているか。

A ①財政の規律性を保ち自治体の運営をしていくことが本当の意味での自治体の自治権を主張するベースになると考えている。②各区が相当な行政改革を区の独自の考え方で進めていることを国政、都政に訴えながら財源や税源の確保に取り組んでいる。議会の皆様方にも是非協力を賜りたい。

地球温暖化に伴う様々な 自然災害への対応について

Q ①自然災害に「想定外」という言葉はもはやない。本区に起こり得る災害時の適切な情報収集、情報提供のあり方は ②ゲリラ豪雨や地下水上昇問題、竜巻等の新たな自然災害への対策を早急に行うべき ③災害の予見の見地に立った区民への周知についての考えはいかにか。

A ①区立施設や関係機関へのデジタル無線機の配置を進めサイレン、緊急エリアメールの活用も検討する。②千代田区地域防災計画（風水害対策）の修正を進めており、地下街が多い等本区の地域性を踏まえ前倒しで早急に作業を進めていく。③「特別警報」発令時の対応を含め広報誌、ホームページ等で適宜適切に情報提供していく。

その他、「子どもの安全対策」及び「麹町保育園の整備」について質問を行いました。



▲皇居東御苑 果樹古品種園

一般質問 松本 佳子

乳幼児保育・教育について



Q ①今後も増え続けると想定される保育園入園希望者に備え、待機児童解消を重要視しすぎるあまり、定員数の整備方向だけに流れていないか ②充実した保育環境の維持や子どもの安全を確保し、さまざまな運営形態の乳幼児施設の現場での課題等を一元統括すべき部署が必要である。どこが受け止め解決しているのか ③保育内容の平等性の維持について、園の経営管理者だけに任せるのではなく、区の方針としての方向性を示し、共通した体制の確立が大切ではないか ④本区では全国に先駆け、子ども園や幼保一体施設等の施策を進めてきた。今後も0歳から18歳までの次世代育成支援にあたり、保護者が安心して子育てのできる環境とはどのようなものとして捉えているのか。

A ①子どもを産んでも働きたいという女性が増加している。多様な生き方に対応できるような保育施設を誘致・整備してきた。②子どもの健全な育成には施設の連携、協力は不可欠である。子ども教育部で現状を把握し現場の問題解決に工夫をこらしている。③就学前プログラムに基づき、教育、保育の平等性の維持に努めている。④すべての子どもが尊重され、それぞれの個性に応じた育ちが確実に保障されるような社会と考える。

このような答弁があったが、いつも型どおりの内容なので、今回はもう少し、基本的な区の姿勢を示してもらい、将来に向けた方向付けが明らかになることを望んでいたため、少々残念な答弁に終わりました。

一般質問 永田 壮一

図書館・学校図書館の 図書選定と 役割について



Q 天皇・国旗・国歌の否定や史実に基づかない表現がある「はだしのゲン」を学校図書に置くことは問題である。「愛国心を育てる」という趣旨の学習指導要領に反していないか。

A 多様な価値観により受け止め方はさまざまだが、学習指導要領の趣旨を踏まえ、適切に指導していく。

区民からも「はだしのゲン」を学校からの撤去を求める陳情が出されている。反国家的な考えを多様な価値観として認めてよいのか疑問が残った。

公立学校の体育指導について

Q 東京都の全国体力テストの結果が低いので早急に改善の必要がある。日常的に野外での活動が少ない都心部では体育の重要性が高い。部活では競技志向も大切だが、生涯スポーツの観点から運動を楽しむことを教えて欲しい。

A 特に弱い持久力を強化するため休み時間に走る機会を増やしたり、エアロビクスを取り入れてたりしている。能力別指導、一流選手の派遣など「健康・体力・食育向上プラン」事業を実施するなど、さらなる体育の充実・改善を行っていく。